

龍谷大学における「仏教 SDGs」を通じた成果と課題（2023 年度）

2024 年 11 月 1 日

龍谷大学では、2020 年度から 2039 年度を計画期間として展開する将来計画「龍谷大学基本構想 400」における将来ビジョンとして、『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」旨を掲げています。これは、まさに、持続可能な社会の実現を希求する計画といえます。

また、浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心（摂取不捨）と、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す「仏教 SDGs」を掲げ、SDGs に資する諸事業を様々に展開しています。これらを踏まえ、龍谷大学ならではのアプローチで SDGs の達成に貢献することを誓い、2022 年 2 月に「龍谷大学 SDGs 宣言」を発出するに至りました。

ここでは「環境」「経済」「社会」及び「パートナーシップ」の 4 つの区分に分類し、2023 年度の主な活動を通じた成果と課題をまとめました。各取組の詳細については「[龍谷大学の SDGs 取組実績](#)」をご参照ください。

龍谷大学基本構想 400 – 2039 年創立 400 周年を超えた未来に向けて –

<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

龍谷大学 SDGs 宣言

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/about/>

仏教 SDGs について

<https://retaction-ryukoku.com/concept>

龍谷大学の SDGs 取組実績

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/goal>

社会分野



環境省が定める自然共生サイトに認定された「龍谷の森」

私たちの「社会」・「経済」は、自然資本の上に成り立っています。このことから、龍谷大学では「環境」を SDGs 達成のための基盤的要素として捉えています。

全国で川や湖沼の生態系が失われ、漁業協同組合の経営が資源減少や費用高騰で悪化しています。この問題に対し、先端理工学部の山中裕樹准教授は「環境 DNA 分析」を活用し、生態系の把握と保全を進めています。この技術を活用し「オンライン漁協アプリ」を運営する株式会社フィッシュパスと簡便な調査アプリを共同開発することで、持続可能な自然保護活動を支援しています。

また、2021 年度に実施し日本初となった学生気候会議を 2023 年 12 月 2 日、16 日の 2 日にわたって実施しました。学生団体 OC's (オックス) が中心となって会議を運営しました。本会議で議論された内容をもとに提言書をまとめ、大学に提出する。このように、学生を中心に全学的に環境問題に対する関心や対策への機運が高まっています。

2024 年 3 月、日本の大学で初めて生物多様性保全に関する「ネイチャーポジティブ宣言」

を発出し、ネイチャーポジティブの目標達成を目指す姿勢を表明しました。仏教の観点からネイチャーポジティブに寄与する人間を育成すること、関連する研究成果の社会実装、国・地方自治体・企業等と連携した新たな価値創造を行うこと等を掲げています。3月18日には瀬田キャンパスに隣接する「龍谷の森」が関西の私立大学で初めて環境省の定める「自然共生サイト」に認定されるなど、本学の生物多様性保全に資する取り組みは社会的にも評価されています。